

公表

## 事業所における自己評価総括表

○事業所名	つくば市福祉支援センターくきざき		
○保護者評価実施期間	令和8（2026）年1月6日		～ 令和8（2026）年2月20日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	18家庭	(回答者数) 13家庭
○従業者評価実施期間	令和8（2026）年1月6日		～ 令和8（2026）年1月13日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	5	(回答者数) 5
○事業者向け自己評価表作成日	令和8（2026）年3月6日		

## ○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	・親子通所なので、お子様の集団の中での姿を保護者様と一緒に確認できる。	・療育中でのお子様の様子を保護者様と共有し、お子様の発達段階や課題について確認している。お子様にあった声掛けや働きかけ、対応の仕方など一緒に考えている。	・家庭や通所園での様子なども踏まえ、より過ごしやすくするために家庭や園での工夫点なども一緒に考えたり、保護者様との面談の中でお子様の理解がより深まるよう、丁寧に説明していく。
2	・多職種（ST.OT.PT）の視点でお子様の発達段階をとらえ、アドバイスできる。	・職員間でお子様の行動の背景や理由について専門的な視点から多色的にとらえ、共通理解を図るよう努めている。保護者様向けの学習会を（ST.OT年に2回ずつ）開き、お子様理解に繋がる機会を提供している。	・職員の専門性を高めるため、研修等に積極的に参加し、そこで得た知識や技術を療育の中に取り入れ、活かせるようにする。
3	・関係機関連携で年に2～3回お子様の所属園に訪問している。（3歳以上児）	・保護者様に園生活での心配事や気になる事等を事前に何うことで、見学後その視点で報告を行っている。 ・お子様の主となる集団の中での困り感や頑張りについて観察し、園の先生と情報共有するよう取り組んでいる。	・こちらからの訪問だけでなく、園からの見学及び電話での相談など、多様な形での連携を今後も模索する。

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	・保護者様同士の交流の機会や親の会の活動支援が少なくなっている。	・療育の行事や開催日数の減少により、保護者様同士の交流の機会が減っている現状がある。	・療育の活動の中で、保護者様同士の交流を促すような機会を積極的に設けるようにする。（懇談会・勉強会等）
2	・施設の老朽化により、お子様や保護者様が過ごしやすい環境にすることが難しい。 ・お子様の活動に合わせた環境を設定することが難しい。	・建物は築35年以上であり、加えて他事業との複合施設であるため、専門スペースが狭く、利用者様にはご不便をおかけしている状況である。	・適宜点検や修繕を行い、可能な限り利便性を高めるよう努めるとともに、お子様の状況に合わせた環境作り（刺激の調整・構造化）に努めていく。
3	・事故防止マニュアル等の策定は行っているが、周知や説明が不十分である。 ・避難訓練の実施の仕方に工夫が必要である。	・マニュアル等は保護者様の目の届きやすい場所に掲示し、周知しているが、療育開催日において説明を行う時間を設けることが難しい。 ・各曜日で避難訓練を行い、避難経路や場所の確認は行ったが、より丁寧な周知が必要である。	・オリエンテーション等の機会を活用し、保護者様にマニュアルの周知や説明を丁寧にを行う。 ・引き続き各曜日で避難訓練を行うと共に、お便り等に避難訓練の実施日や避難経路、場所を記載し周知する。